

## ②8 由良川下流部緊急水防災対策

**キーワード** 水害対策、輪中堤・宅地の嵩上げ、地域協働、情報提供

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

平成16年の台風23号によって京都府内の由良川沿川で発生した甚大な被害を踏まえ、由良川下流部における緊急的な治水対策として、輪中堤及び宅地嵩上げを実施した事業。

道路の冠水等への対応として、国・府・市町の河川部局による既存の協議会に各道路部局や警察・自衛隊も加えるとともに、きめ細やかな河川情報の提供等ソフト対策も推進した点や、2地区では輪中堤整備と併せて市が圃場整備を実施し、8.7haあった耕作放棄地がなくなり地域活力の復活にも寄与した点が評価された。

### 1. はじめに

由良川の下流部は狭隘な谷底平野を流れており、川幅が狭く、勾配が緩いため洪水が発生し易い地形となっている。

平成16年10月には台風23号により、戦後第2位（当時）の水位を記録する大洪水が発生し、堤防が未整備であった下流部で多くの家屋浸水被害が発生したほか、防災拠点となるべき役場が浸水し、防災拠点としての機能麻痺も発生した。

これらの課題を踏まえ、由良川下流部において緊急的な水防災対策を推進するとともに、河川情報のきめ細やかな提供等、地域防災力を向上させるため、「由良川下流部緊急水防災対策」を実施した。

### 2. 事業の概要

#### 1) 水防災対策の緊急的な実施

平成15年8月に策定された「由良川水系河川整備計画」において、概ね30年間で実施する予定であった土地利用一体型水防災対策（以下、「水防災対策」という）を平成16年台風23号による被害を踏まえ、10年間で緊急的に実施した。水防災対策とは、狭い平地に集落が散在する谷底平野が長く続く下流部の地形特性に合わせて採用された治水対策であり、「輪中堤」と「宅地嵩上げ」の2種類の対策がある。輪中堤は洪水から効率的に集落を守るために、集落を堤防で囲む対策であり、宅地嵩上げは家屋が散在している場合に、個々の家屋の敷地を計画高水位まで嵩上げする対策である。本対策では18地区を対象に、総延長約20kmの輪中堤整備と総戸数約130戸の宅地嵩上げを実施した。また水防災対策と合わせて、京都府による道路嵩上げや橋梁架替や河川の付け替え、市による圃場整備も実施された。

#### 2) 地域防災力向上に向けた関係機関との連携

国、京都府、市町の河川部局による既存の協議会に、

**受賞機関** 国土交通省 近畿地方整備局  
福知山河川国道事務所、福知山市、舞鶴市



水防災対策の概念図



宅地嵩上げ工事の状況

道路部局や警察、自衛隊を加えた「由良川下流部緊急水防災対策協議会」を発足し、地域防災力の向上に向けて「きめ細やかな河川情報の提供」、「地域の自主防災組織の育成」等、ハード・ソフト両面から総合的な防災対策を検討した。

#### 3) きめ細やかな河川情報の提供の強化

水位や雨量等の河川情報を地域の方にいち早く知らせるための「河川情報表示版」や雨量、水位、CCTVカメラ等の情報をHPで確認できる「由良川リアルタイム防災情報」、携帯端末向けの河川情報発信等、防災情報の伝達方法を整備した。

### 3. 事業の成果

事業の完了後、平成29年10月に洪水が発生したが、対策した地区では由良川からの氾濫による家屋浸水被害は発生しなかった。また、携帯端末向けの河川情報発信等を運用し、防災情報の早期伝達を実施した。

### 4. おわりに

本対策の完成後も、由良川の治水対策は整備段階である。水害に強い地域づくりのさらなる推進を目指すべく、治水対策を引き続き実施し、洪水被害の軽減に努めているところである。最後に、本対策を連携して推進いただいた、由良川下流部緊急水防災対策協議会の各関係機関に、この場をお借りし、心より感謝の意を表す。

**賛助会員** (株)建設技術研究所、公成建設(株)、(株)渋谷組、鈴木建設(株)、西田工業(株)、(株)ニュージェック、パシフィックコンサルタンツ(株)、三井共同建設コンサルタント(株)、村本建設(株)、八千代エンジニアリング(株)